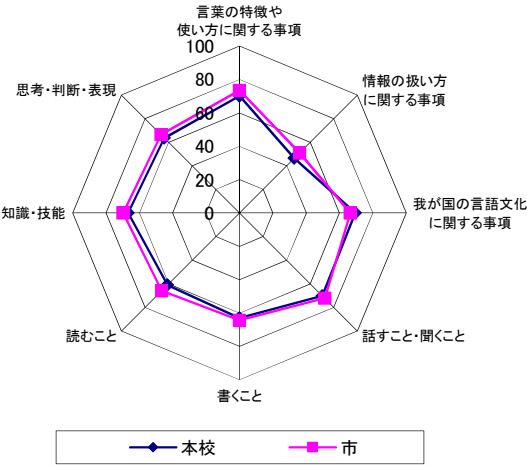


宇都宮市立横川西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.2	73.5	74.4
	情報の扱い方にに関する事項	46.5	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	69.4	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	70.2	72.3	73.7
	書くこと	62.9	64.3	66.6
	読むこと	61.0	65.8	64.9
観点別	知識・技能	66.7	69.8	70.8
	思考・判断・表現	63.6	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

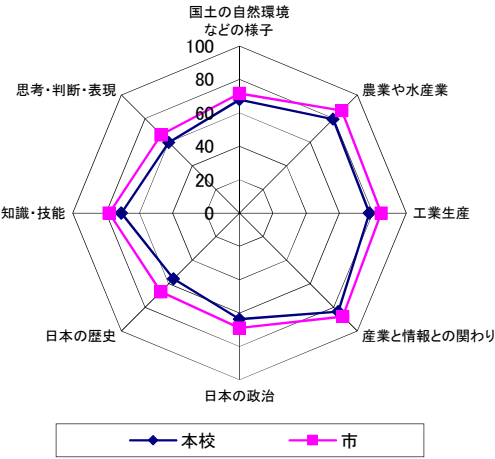
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●市の正答率を3. 3ポイント下回った。 ○「三字熟語の成り立ちについて理解している」の正答率は70. 6%で、やや市の正答率を上回っている。 書く力を育むために作文などに力を入れて取り組んでいるが、その中で多くの言語に触れる機会が増えた背景が考えられる。 ●漢字の読み書きについて、多くの問題で市の正答率を下回っている。 ●「敬語について理解し、正しく使っている」の正答率は21. 2ポイントと低い。	・朝の学習の時間やAIDリルの活用などで漢字練習に確実に取り組んだり、繰り返し練習する機会を設けたりすることで、基本的な漢字の定着を図る。 ・実生活の中で、時と場に応じた敬語を使うよう繰り返し指導する。
情報の扱い方にに関する事項	●市の正答率を4. 5ポイント下回った。 ○「情報と情報との関係について理解し、目的に応じた文章を簡潔に書いている」の正答率は49. 4%で、市の正答率をやや下回るものの、指定された字数の中で正しい内容の文章を書くことができています。 ●「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理してる」の正答率は43. 5%で、市の正答率を7. 2ポイント下回った。	・文章の中から、要旨となる部分を判断するとともに、それらの情報の関係性をまとめるなどの活動を授業の中で行う。 ・提示された条件に応じて自分の考えをまとめることができるように、普段の授業の中でも考えをまとめる活動を行う際に条件を与えるなどの工夫を行う。
我が国の言語文化に関する事項	○市の正答率を2. 9ポイント上回った。 ○「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語についての理解している」の正答率は69. 4%で、市の正答率を2. 9ポイント上回っていた。	・漢字の成り立ちや由来について授業の中で話題にしたり、調べる機会を設けたりするなど、和語、漢語、外来語に触れる機会を増やす。
話すこと・聞くこと	●市の正答率を2. 1ポイント下回った。 ○「意図に応じて、質問を工夫している」の正答率は77. 6%で、市の正答率を0. 6ポイント上回っている。 ●「話の内容を捉えている」の正答率は89. 4%で、市の正答率を4. 1ポイント下回った。	・対話や発表の機会を設け、話したり聞いたりする機会を意図的に増やす。 ・ただ聞くだけでなく、相手が伝えたいことの趣旨は何か、疑問点はないかなどの観点を提示することで、聞く力の向上を図る。
書くこと	●市の正答率を1. 4ポイント下回った。 ○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」の正答率は67. 1%で、市の正答率を3. 9ポイント上回った。作文などの文章を書く機会が増えていることが背景として考えられる。 ●「指定された長さで文章を書いている」の正答率は62. 4%で、市の正答率を6. 1ポイント下回っている。	・意見文について、書き方の型など、方法論的な説明を充実させる。 ・授業の中で、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える。
読むこと	●市の正答率を4. 8ポイント下回った。 ○「登場人物の心情について描写を基に捉えている」の正答率は74. 1%で、市の正答率と同程度であった。 ●人物像を具体的に想像する問題について、市の正答率を10. 6ポイント下回っている。	・叙述から人物の心情を読み取るとともに、情景や気持ちの変化、性格、他の人物との関係性などの特徴に注目し、具体的に人物像を想像する活動を取り入れる。 ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉え整理する活動を取り入れる。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	67.9	71.6	69.6
	農業や水産業	79.5	86.7	83.7
	工業生産	77.9	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	83.7	87.7	77.4
	日本の政治	63.7	68.9	71.7
	日本の歴史	55.8	66.7	66.3
観点別	知識・技能	70.7	78.0	76.7
	思考・判断・表現	59.7	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

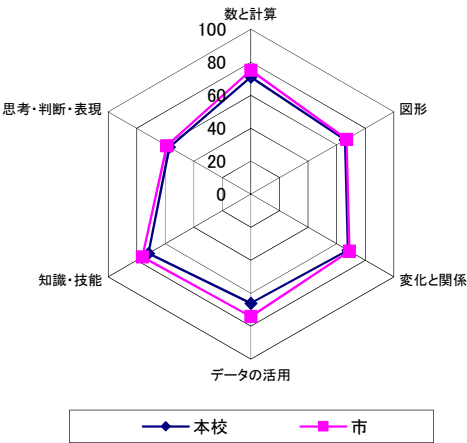
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	●市の正答率よりも3.7ポイント下回った。 ○日本周辺の海洋名については、市の正答率よりもやや低いものの、無解答の児童はいなかった。 ●外国の位置と国旗、日本の地形の名称については、市の正答率よりも6ポイント以上低い結果となった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の地形の名称や外国の位置、国旗に関しては、身近なニュースを取り上げるなどして児童が興味をもてるようにする。また日頃から、地図帳を活用して調べる活動やICT機器を活用して地図パズルを行う活動などを取り入れる。
農業や水産業	●市の正答率よりも7.2ポイント下回った。 ○米の生産が盛んな地域に関する設問では、市の正答率よりも低い、正答率は86.0%であった。 ●水産物の流通の工夫に関する設問では、市の正答率よりも12.6ポイント低かった。	・日本の食料自給率に関連させて農業や水産業を身近なものとして捉え関心をもてるようにする。 ・グラフ等の資料を読み取ることに課題があるため、日頃から資料を読み取る際のポイントを提示した上で、自分の考えを記述したり解答を選択したりする活動を取り入れる。 ・水産業に関しては、再度授業で取り上げるなど復習をする。
工業生産	●市の正答率よりも7.1ポイント下回った。 ○自動車の製造工程や工業製品の分類に関する設問では、市の正答率よりも低い結果ではあるが、どちらも正答率が80%を超え、無解答の児童はいなかった。 ●日本の工業の特色について資料をもとに表現する設問では正答率が66.3%と、市の正答率よりも7.1ポイント低かった。	・提示された複数の資料について、それぞれがどんなことを示しているのか、関連することは何か、どのような問題点が明らかになるかなど、具体的に観点を示しながら読み取る活動を行っていく。また、資料をもとに自分の考えを表現する活動にも慣れることができるよう、普段の授業から取り入れる。 ・日本の工業の特色については、再度復習する。
産業と情報との関わり	●市の正答率よりも4ポイント下回った。 ○様々なメディアの特徴を選択する設問では、市の正答率よりも低い、正答率が91.9%だった。 ○国内の林業が抱える課題について選択する設問では、正答率が38.4%で、市の正答率よりも3.2ポイント高かった。 ●沖縄県での自然環境を守る取組に関する設問では、正答率が75.6%で、市の正答率よりも5.1ポイント下回った。	・日本各地の自然環境を守る取組については、身近なニュースや動画を活用しながら理解を定着させる。
日本の政治	●市の正答率よりも5.2ポイント下回った。 ○国民の義務に関する設問では、市の正答率よりも2.8ポイント低いものの、正答率が84.9%だった。 ●内閣の働きに関する設問では36.0%と市の正答率よりも6.4ポイント低い結果となった。 ●国民と国会と内閣の関係についての理解をもとに図を読み取る設問では、正答率が72.1%で、市の正答率よりも10.5ポイント下回った。	・国会や内閣の働きについて再度内容を確認する。三権分立についても図書資料やICT機器を活用しながら理解を深めさせる。
日本の歴史	●市の正答率よりも10.9ポイント下回り、無解答の児童が20.3%であった。 ○源氏物語に関する設問では、市の正答率よりも低いが、正答率は74.4%であった。 ●特に縄文時代から室町時代までにに関する設問での正答率が低く、市の正答率よりも14ポイント以上下回っているものもあった。記述式の設問では、正答率が11.6%であった。	・各時代ごとの主な出来事や文化の特徴について、年表を活用したり特徴的なエピソードをノートにまとめたりする活動を行い、理解を深めさせるようにする。 ・歴史的事象の名称の理解にとどまらず、前後の出来事との関連や事象から分かる事柄についても考え、表現する活動を行う。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.1	75.1	75.8
	図形	65.9	66.8	68.3
	変化と関係	67.8	68.8	65.0
	データの活用	66.1	74.1	63.6
観点別	知識・技能	71.7	76.1	75.8
	思考・判断・表現	57.2	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

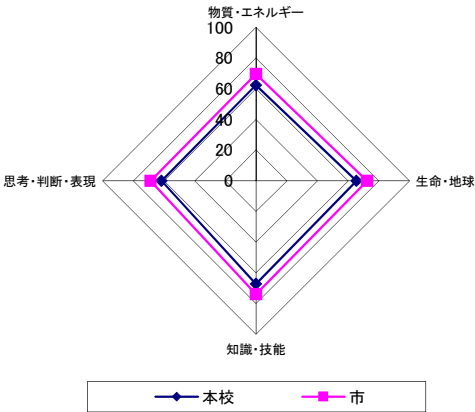
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●市の正答率より4.0ポイント下回っている。 ●「小数第1位×小数第1位(純小数同士の乗法)の計算ができる」の正答率は54.1%で、市の正答率よりも12.0ポイント下回っている。 ●「分数÷分数(約分あり)の計算ができる」の正答率は72.9%で市の正答率よりも7.8ポイント以上下回っている。 ○「図を見て、小数倍の文章問題を解くために乗法の立式をしている」の正答率は74.1%で市の正答率より4.4ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な計算の習得のために、朝の学習の計画的な活用や毎日の宿題を通して繰り返し計算に取り組ませる。AIドリルばかりでなく、ノートやプリントで練習させる。 ・習熟度別学習をうまく活用して、基礎基本の定着を図ったり、発展的な問題に取り組んだりするなど、個に応じた指導を充実を図る。 ・約分や通分の仕方などを確認し、分数を使った問題に取り組ませる。
図形	●市の正答率より0.9ポイント下回っている。 ○「線対称と点対称について理解し、既習の図形から線対称でも点対称でもある図形を選んでいる」の正答率は43.5%で、市の正答率よりも4.1ポイント上回っている。 ●高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積を求める式を理解している」の正答率は34.1%で、市の正答率よりも4.4ポイント下回っている。	・既習事項のいろいろな形の面積の求める公式を再度確認し、繰り返し練習して慣れさせる。 ・線対称や点対称な図形の意味を理解して、作図に慣れことができるように、実際に図形を描いたり、組み立てたりするなど、体験的な学習を多く取り入れ、図形に対する理解を深める。
変化と関係	●市の正答率より1.0ポイント下回っている。 ○「基準量と比較量から、割合を求めることができる」の正答率は57.6%で、市の正答率より3.8ポイント上回っている。 ●「表から面積を求め、どのにわとり小屋が最も混んでいるかを考察している」の正答率は68.2%で、市の正答率よりも5.2ポイント下回っている。	・速さ、道のり、時間の関係と、求める式について再度確認し、問題場面に応じてどのように答えを求めることができるか考える学習を継続していく。 ・割合に関する問題の正答率が低い背景には、問題文を読んで数量関係を把握することへの苦手意識がうかがえる。日常生活の中で割合に表せる事柄を話題にし、問題を解く際は、数直線や図などの活用をすすめ少しでも自分で解決できるように指導する。
データの活用	●市の正答率より8.0ポイント下回っている。 ●「ドットプロットのデータを度数分布に表すことができる」の正答率は65.9%で、市の正答率よりも20.0ポイント下回っている。 ●「問題の場面を理解し、4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求めている」の正答率は35.6%で、市の正答率よりも6.3ポイント下回っている。	・平均や中央値、最頻値などの語彙の意味を理解させ、活用できるように復習をする。 ・ドットプロットのデータから度数分布表を作成できるように、ドットプロットのデータの見方を復習し、問題に取り組ませる。 ・平均を活用した様々な問題に対応できるように、平均の計算の方法や意味の理解を促すだけでなく、応用問題等に取り組ませる。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.3	69.5	65.2
	生命・地球	65.5	72.3	70.1
観点別	知識・技能	67.3	74.0	70.7
	思考・判断・表現	61.6	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●市の正答率より7.2ポイント下回っている。 ○「水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法について指摘できる」の正答率は50.0%で、市の正答率より7.1ポイント上回った。 ●「ふりこの原則はふりこの長さに依存することを理解し、同じ周期になるふりこを指摘できる」の正答率は54.7%で、市の正答率より16.3ポイント下回った。 ●「乾電池2個を使って電磁石のはたらきを強くするために、直列つなぎにすることができる」の正答率は60.5%で、市の正答率よりも13.0ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験や観察、映像資料などを活用して児童が体験的に理解できるようにする。また、グループ編成をできる限り少人数にし、誰もが実験や観察を体験できるようにする工夫する。 ・実験や観察を行うときには、問題に対して生活体験をもとに根拠のある予想をさせ、見通しをもたせた上で結果を観察させる。また、結果から分かることを自分の言葉で考察する習慣をつける。 ・AIドリルなどの演習問題に取り組みせ、基礎的な知識の定着を図る。
生命・地球	●市の正答率より6.8ポイント下回った。 ○「浸食について理解している」の正答率は73.3%では、市の正答率より2.6ポイント上回った。 ●「農家がテントウムシを畑に放す理由を食物連鎖をもとに推測できる」の正答率は55.8%で、市の正答率より15.3ポイント下回った。 ●「まとめの結論を導くために必要な実験の結果を指摘できる」の正答率は73.3%で市の正答率より11.4ポイント下回った。	・実験方法を考える場面では、条件を整理して結果を予想する習慣をつける。また、実験のまとめを自分の文章で論理的に書く習慣をつける。 ・単元の終末には学習したことを生活と結びつけ考察する学習展開を工夫する。 ・生活の中で不思議だと感じることを話題にし、児童に生活の中で起こる現象に興味をもたせる工夫をする。 ・AIドリルなどの演習問題に取り組み、基礎的な知識の定着を図る。

宇都宮市立横川西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学びを実感できる授業づくり	・実生活と結びついた興味をひく学習課題の提示や問題を焦点化した「めあて」の設定、自分の言葉で説明する場の設定、授業の振り返りなど、宇都宮モデルをもとにした授業のデザインの工夫	・低学年では、「いろいろなことが分かったりできるようになったりすることが嬉しい」と回答した児童が95%を超えている。中・高学年では、「授業が分かる」と肯定的回答をした児童は4学年以外で市の肯定割合を下回っている。
・家庭学習の習慣の定着	・家庭学習強化週間の設定。 ・年度初めに家庭学習の手引きを配付し、児童が活用できるようにしたり、懇談会等で説明をして保護者の協力を得たりするようにしている。	・本校で設定している家庭学習の目標時間である「低学年20分以上」、「中学年40分以上」、「高学年60分以上」について、ほとんどの学年が市の割合を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・宇都宮モデルに基づいた「学びを実感できる授業づくり」を継続し、児童が「できるようになった」や「授業が分かる」と感じられるような授業をデザインする力を高めていく。
- ・ＩＣＴ機器の活用法について、具体的な事例を紹介したり演習を取り入れたりしながらの研修を行い、教員がＩＣＴ機器についての技能を高め、より効果的な指導を行うことができるようにする。